

会員各位

公益社団法人日本麻酔科学会
安全委員長 廣田 和美
医薬品適正評価対策専門部会長 山浦 健

ヘパリンに関する注意喚起

ヘパリン製剤の、「ヘパリン Na 注」と「ヘパリン Na ロック用」について、インシデントが起きる可能性が会員より寄せられましたので、情報共有のために注意喚起の案内をいたします。各施設におかれましては医師、看護師、臨床工学技士などに周知の徹底をお願いいたします。

体外循環装置使用時等の血液凝固の防止に用いるヘパリンナトリウムは、商品名では「ヘパリンナトリウム[®]」「ヘパリン Na[®]」などがあり、1,000 単位/mL です。

一方、「静脈内留置ルート内の血液凝固の防止」を目的に使用するヘパリンナトリウムは、商品名では「ヘパフラッシュ[®]」「ヘパリン Na ロック用[®]」などがあり、10 単位/mL(短時間用)と100 単位/mL(長時間用)です。

なお、中心静脈穿刺時や血管造影時に用いるヘパリン生食(ヘパ生)は一般的に1~10 単位/mL に希釈して用いられています。

特に、「ヘパリン Na 注[®]」と「ヘパリン Na ロック用[®]」は混同しやすい名称になっています。

また、本来の目的以外に使用すると、過小投与あるいは過量投与になる可能性があります。例えば、中心静脈穿刺時や血管造影時にヘパ生の代わりに「ヘパリン Na ロック用[®]」を用いて手技を行った場合は、過量投与になる可能性があります。

以上、ヘパリンナトリウムは用途に応じた製剤を使用すること、これらの製剤を混同しないように改めて周知いただきますよう、よろしくお願いいたします。

【ヘパリンナトリウムの濃度】

- ✓ 体外循環装置使用時等の血液凝固の防止： 1,000 単位/mL(製剤)
- ✓ 静脈内留置ルート内の血液凝固の防止： 10 単位 or 100 単位/mL(製剤)
- ✓ 中心静脈穿刺や血管造影時の血液凝固の防止： 約 1-10 単位/mL(希釈作成)
- ✓ その他 透析用では 150-500 単位/mL など多くの濃度の製剤が存在